

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
ここに当社第23期中間(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の
事業の概況についてご報告申し上げます。

代表取締役社長

村田 邦彦



当中間期の概況

当中間期におけるわが国の経済は、原油高騰に端を発した原材料高など不安材料を抱えながらも、企業収益の好調と民間設備投資の底堅さにささえられ、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

しかしながら、食品業界および外食業界におきましては、所得が増加しない中での家計の負担増などにより、個人消費が力強さを欠くとともに、コスト面で原材料価格が上昇するなど、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、食品事業においてブランド重視の営業を継続するとともに、レストラン事業においては、既存店における集客増とカフェ業態店舗の収益モデルの確立に努めてまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は48億300万円（前年同期比2.6%減）となり、利益面では、営業利益4億500万円（前年同期比16.6%減）、経常利益4億270万円（前年同期比17.4%減）となりました。一方、中間純利益は子会社の上海ピエトロ餐飲有限公司の解散決議にともなう法人税等調整額の減少（繰延税金資産の増加）により3億300万円（前年同期比13.2%増）となりました。

通期の見通し

今後の経済見通しといたしましては、原油価格の高騰による各種原材料価格上昇の影響が、企業部門と家計部門の両方に広範囲に及ぶとともに、アメリカ経済の減速の懸念もあり、先行き楽観視できない状況が続くものと思われま。

食品業界および外食業界におきましては、販売競争の激化はもとより、各種コスト負担増加への対応をめぐり、一層厳しい状況になるものと思われま。

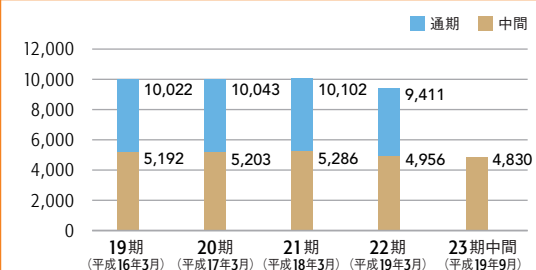
このような厳しい経営環境の中で、当社グループは、おいしさと素材と製法にこだわったプレミアムシリーズ

「ピエトロファーマーズ」の第一弾としてタマネギの皮を使用した「オニオンティー」を当社レストランおよび通信販売限定で平成19年10月に新発売し、拡販に取り組んでまいります。また、レストラン事業においては、平成19年11月にグランドメニューを刷新し、創業以来の人気メニューは残しつつ、近年の人気フェアメニューおよび野菜が主役のレストラン「ベジエ」の新メニューを採り入れ、新規顧客の開拓と来店率向上に取り組んでまいります。

これらの施策を実行することにより、平成20年3月期の連結業績につきましては、売上高93億100万円（前期比1.1%減）、営業利益7億300万円（前期比10.0%減）、経常利益6億900万円（前期比9.4%減）、当期純利益4億200万円（前期比12.3%増）を予想しております。

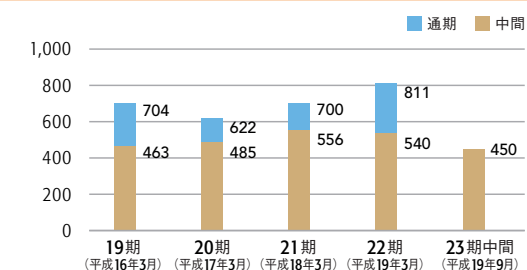
売上高

(単位: 百万円)



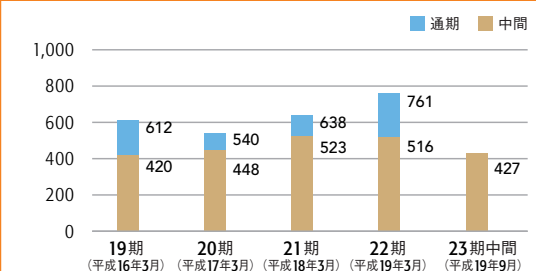
営業利益

(単位: 百万円)



経常利益

(単位: 百万円)



中間(当期)純利益又は純損失

(単位: 百万円)

